

平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年2月6日

上場会社名 株式会社 ゴールドウィン

上場取引所 東

コード番号 8111 URL http://www.goldwin.co.jp

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西田 明男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長 兼財務部長 (氏名) 二川 清人

TEL 03-3481-7203

四半期報告書提出予定日 平成21年2月13日

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	33,188	—	436	—	1,228	—	1,460	—
20年3月期第3四半期	33,790	△1.2	△813	—	520	△60.0	△132	—

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円 銭		円 銭	
21年3月期第3四半期	25.04		—	
20年3月期第3四半期	△2.28		—	

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円 銭		
21年3月期第3四半期	45,423		13,754		29.8	232.47		
20年3月期	45,551		14,130		30.6	239.25		

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 13,558百万円 20年3月期 13,952百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
20年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
21年3月期	—	0.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	45,000	△0.8	200	—	1,500	—	1,500	—	25.72	

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有

新規 一社(社名) 除外 一社(社名 株式会社ウエザーステーション)

[(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他 をご覧ください。]

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

[(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他 をご覧ください。]

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

[(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他 をご覧ください。]

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第3四半期 58,478,218株 20年3月期 58,441,218株

② 期末自己株式数 21年3月期第3四半期 154,863株 20年3月期 124,370株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第3四半期 58,318,299株 20年3月期第3四半期 58,325,206株

※ 業績予想の適切なご利用に関する説明、その他特記事項

1. 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間におけるわが国の経済は、米国発の金融危機の影響が世界の实体经济にも波及したことで、円高や株価下落が急激に進行し、雇用環境も急速に悪化するなど景気後退が顕著になってまいりました。

スポーツアパレル業界におきましても、健康に対する意識の向上によりスポーツへの関心は高まっておりますが、景況感の悪化に伴う消費者の生活防衛意識の高まりから消費マインドは当第3四半期連結会計期間より急速に悪化し、厳しい経営環境が続いております。

このような経営環境の中、当社グループ（当社、連結子会社および持分法適用会社）は当連結会計年度を第2年度とする中期経営計画に基づき経営構造改革に全力をあげて取り組んでおります。当第3四半期連結会計期間の経営構造改革の進捗状況は、調達手法改革による商品原価低減と需要予測精度の向上を図ったことによる返品・値引の低減により、前年同期に比べ売上総利益が改善いたしました。また、在庫の総量抑制と回転率の向上、返品の高減効果による物流コストの削減と、前連結会計年度に実施した人員の削減による人件費の抑制などにより販売費及び一般管理費が低減し、前連結会計年度に不採算事業から撤退した効果も合わせて、前年同期に比べ営業利益が大幅に改善いたしました。

ブランド事業といたしましては、アスレチックスタイル事業におきまして、前連結会計年度に導入しました「スピード」ブランドの積極事業拡大を進めてまいりました。生産につきましても増産体制が整い、積極的な営業活動も相まって売上が前年比大幅に伸長し、収益構造も改善しております。また、「エレッセ」ブランドは店頭状況に連動した短サイクル生産の推進により返品・値引が大幅に低減され、商品在庫も大幅に削減されたことにより収益が改善され、事業構造改革が順調に進んでおります。

アウトドアスタイル事業におきまして、「ザ・ノース・フェイス」ブランドは、数シーズン続いたダウンウェアブームが落ち着き、レインウェア、ウインドブレーカー、バッグ等の商品に販売主力が移っておりますが、引き続き好調に推移し売上を伸ばしております。

アクティブスタイル事業におきましては、ウインター関連商品の店頭展開開始の早期化などにより店頭消化が順調に推移しており、大幅に収益改善が進んでおります。また、自転車、バイクウェアなどの通年型商品群も堅調に推移しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高33,188百万円（前年同期比1.8%減）、営業利益436百万円（前年同期は813百万円の損失）、経常利益1,228百万円（前年同期比136.2%増）、四半期純利益1,460百万円（前年同期は132百万円の損失）となり、経営改革の効果が明確に発現し、前年同期に比べ大幅に業績を改善することができました。

なお、前年同期比は参考情報として記載しております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末比127百万円減少し45,423百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加3,989百万円と、投資有価証券の減少1,692百万円、商品及び製品の減少1,412百万円、有形固定資産および無形固定資産の減少1,012百万円等であります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べて248百万円増加し31,668百万円となりました。主な要因は、短期借入金の増加3,452百万円と、長期借入金の減少2,080百万円、社債の償還による減少980百万円等であります。

純資産合計は、前連結会計年度末比376百万円減少し13,754百万円となりました。その結果、自己資本比率は29.8%となっております。

（キャッシュ・フローの状況）

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は8,608百万円となり、前連結会計年度末より3,989百万円増加いたしました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られたキャッシュ・フローは2,732百万円となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益の計上1,572百万円、たな卸資産の減少1,192百万円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果得られたキャッシュ・フローは866百万円となりました。これは主に、固定資産（東京第2ビル）の売却収入等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られたキャッシュ・フローは395百万円となりました。これは主に、借入金の増加1,371百万円と社債の償還による支出980百万円等によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成20年11月7日に公表いたしました平成21年3月期（平成20年4月1日から平成21年3月31日）通期業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

平成20年4月1日付で当社が連結子会社(株)ウエザーステーションを吸収合併したことにより(株)ウエザーステーションは消滅いたしました。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

- ① 当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算出したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末において算出した貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。
- ② 減価償却の方法として定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,246	5,256
受取手形及び売掛金	11,022	10,248
商品及び製品	6,957	8,369
原材料及び貯蔵品	774	600
仕掛品	85	94
その他	1,063	1,901
貸倒引当金	△253	△266
流動資産合計	28,896	26,204
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,463	2,683
土地	1,270	1,729
その他（純額）	192	220
有形固定資産合計	3,927	4,633
無形固定資産		
商標権	1,276	1,567
その他	251	266
無形固定資産合計	1,527	1,833
投資その他の資産		
投資有価証券	7,073	8,765
差入保証金	2,961	2,986
その他	1,457	1,545
貸倒引当金	△419	△418
投資その他の資産合計	11,072	12,879
固定資産合計	16,527	19,346
資産合計	45,423	45,551

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,792	10,720
短期借入金	6,230	2,778
1年内償還予定の社債	2,810	3,110
1年内返済予定の長期借入金	1,428	2,883
未払法人税等	88	96
賞与引当金	278	426
返品調整引当金	247	409
その他	1,900	2,190
流動負債合計	24,775	22,616
固定負債		
社債	690	1,370
長期借入金	3,818	4,443
退職給付引当金	1,727	1,689
その他	657	1,301
固定負債合計	6,893	8,804
負債合計	31,668	31,420
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,329	10,321
資本剰余金	8	5,532
利益剰余金	3,944	△3,047
自己株式	△37	△28
株主資本合計	14,246	12,777
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	80	624
繰延ヘッジ損益	△43	△51
為替換算調整勘定	△724	601
評価・換算差額等合計	△687	1,174
新株予約権	185	171
少数株主持分	10	7
純資産合計	13,754	14,130
負債純資産合計	45,423	45,551

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
売上高	33,188
売上原価	20,248
売上総利益	12,939
返品調整引当金戻入額	162
差引売上総利益	13,102
販売費及び一般管理費	12,665
営業利益	436
営業外収益	
受取利息	27
受取配当金	37
持分法による投資利益	1,124
その他	136
営業外収益合計	1,325
営業外費用	
支払利息	220
為替差損	117
その他	195
営業外費用合計	533
経常利益	1,228
特別利益	
固定資産売却益	387
貸倒引当金戻入額	16
その他	50
特別利益合計	454
特別損失	
固定資産処分損	12
ブランド整理損	56
その他	41
特別損失合計	110
税金等調整前四半期純利益	1,572
法人税、住民税及び事業税	112
法人税等合計	112
少数株主利益	△0
四半期純利益	1,460

(第3四半期連結会計期間)

(単位：百万円)

当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)	
売上高	13,861
売上原価	8,044
売上総利益	5,817
返品調整引当金戻入額	135
差引売上総利益	5,952
販売費及び一般管理費	4,342
営業利益	1,610
営業外収益	
受取利息	9
受取配当金	10
持分法による投資利益	171
その他	42
営業外収益合計	233
営業外費用	
支払利息	68
為替差損	102
その他	53
営業外費用合計	225
経常利益	1,619
特別利益	
受取補償金	27
特別利益合計	27
特別損失	
投資有価証券評価損	5
特別退職金	2
その他	2
特別損失合計	10
税金等調整前四半期純利益	1,636
法人税、住民税及び事業税	48
法人税等合計	48
少数株主利益	△0
四半期純利益	1,587

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間
 (自 平成20年4月1日
 至 平成20年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	1,572
減価償却費	494
投資有価証券評価損益(△は益)	6
退職給付引当金の増減額(△は減少)	38
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△11
受取利息及び受取配当金	△64
支払利息	220
持分法による投資損益(△は益)	△1,124
有形固定資産売却損益(△は益)	△387
売上債権の増減額(△は増加)	△774
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,192
仕入債務の増減額(△は減少)	1,072
その他	510
小計	2,745
利息及び配当金の受取額	651
利息の支払額	△203
法人税等の支払額	△128
訴訟和解金の支払額	△332
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,732
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△954
定期預金の払戻による収入	952
有形及び無形固定資産の取得による支出	△79
有形及び無形固定資産の売却による収入	1,026
投資有価証券の取得による支出	△13
投資有価証券の売却による収入	38
差入保証金の差入による支出	△16
差入保証金の回収による収入	42
その他	△129
投資活動によるキャッシュ・フロー	866
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	14,600
短期借入金の返済による支出	△11,148
長期借入れによる収入	750
長期借入金の返済による支出	△2,830
社債の償還による支出	△980
その他	3
財務活動によるキャッシュ・フロー	395
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,989
現金及び現金同等物の期首残高	4,619
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,608

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

（４）継続企業の前提に関する注記

当社グループは、前連結会計年度において2,009百万円の営業損失を計上し、2期連続の営業損失となりました。当該状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しております。

当該状況を解消すべく、平成19年11月15日に発表した中期経営計画に基づき、前連結会計年度には基礎収益力の回復策として「不採算事業からの撤退」「人員体制の見直しによる人件費の削減」を行い、また財務体質の強化とバランスシートの健全化をめざして「本社ビルの流動化」を実施し、有利子負債を削減する等、構造改革を予定どおり実施いたしました。

中期経営計画の骨子は以下のとおりです。

- ・不採算事業からの撤退による採算性の確保
- ・人員体制の見直しによる人件費の削減
- ・調達改革によるコストおよび在庫の削減
- ・物流改革によるコストの削減
- ・不動産の売却による有利子負債の削減

当第3四半期連結累計期間は、調達手法改革による商品原価低減と需要予測に基づく商品調達の適量化による返品・値引の削減に努め、売上高は前年同期と比べ若干下回りましたが、売上原価の大幅な低減により売上総利益は前年同期を上回る結果となりました。また、物流改革として品番数の削減による在庫管理の効率化および総物量の圧縮を推し進め、物流コストの削減に努めております。それらの結果、当第3四半期連結累計期間におきましては、営業利益の黒字化を実現することができました。

ブランド事業といたしましては、「ザ・ノース・フェイス」ブランド事業は予定どおり好調に推移しており、導入2年目の「スピード」ブランド事業につきましても、競泳用の水着が社会的な注目を集め、順調にシェアを獲得しておりますので、今後も事業の積極的拡大を図ってまいります。

引き続き上記に掲げた経営改革諸施策を着実に実行し、平成21年3月期においては期初計画どおり営業利益の黒字化を達成したいと考えております。

資金面におきましては、本社ビルおよび東京第2ビル売却資金による借入金返済も含め、当第3四半期連結会計期間末には前年同期末に比べ有利子負債を8,643百万円削減しております。今後も主要金融機関との取引関係維持・強化により、資金調達の安定化を図るとともに、さらなる有利子負債の圧縮に取り組んでまいります。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提に作成されており、上記の重要な疑義の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

欠損填補に充てるため、資本剰余金5,532百万円を利益剰余金に振り替えております。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

前第3四半期連結累計期間(平成19年4月1日～12月31日)

科目	前年同四半期 (平成20年3月期 第3四半期)
	金額(百万円)
I 売上高	33,790
II 売上原価	21,220
売上総利益	12,569
返品調整引当金戻入差額	205
差引売上総利益	12,774
III 販売費及び一般管理費	13,588
営業利益	△813
IV 営業外収益	1,809
1. 受取利息	18
2. 受取配当金	33
3. 持分法による投資利益	1,498
4. その他	258
V 営業外費用	475
1. 支払利息	291
2. その他	183
経常利益	520
VI 特別利益	14
1. 固定資産売却益	8
2. 貸倒引当金戻入益	3
3. その他	2
VII 特別損失	462
1. 固定資産処分損	6
2. 特別退職金	288
3. その他	167
税金等調整前四半期純利益	72
法人税、住民税及び事業税	90
法人税等調整額	114
少数株主利益	△0
四半期純利益	△132